

Lecture 授業No.21 教科書P.38～

T.Q.「ヒन्दウー教がグプタ朝時代に成立した理由とは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.38

T.Q.「ヒンドゥー教がグプタ朝時代に成立した理由とは？」

1. **グプタ朝**
2. **チャンドラグプタ2世**
3. **グプタ美術**
4. **ヒンドゥー教**
5. **バラモン教**

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. 古代インド3番目の統一王朝＝グプタ朝
2. 伝統回帰のグプタ朝とヒンドゥー教成立
3. 古代インド最後の王朝＝ヴァルダナ朝と
唐の玄奘（三蔵法師）

⑤ **グプタ朝**(4C~6C) 都__**パータリプトラ**に戻る

(1) **チャンドラグプタ1世**__初代

(2) **チャンドラグプタ2世**__4C、全盛

1 **サンスクリット文学** ※1 ex. **カーリダーサ** 『シャクンタラー』

2 **民族叙事詩**...『**マハーバーラタ**』、『**ラーマヤナ**』 ※2

3 **法顕**(ほっけん)が来印 T.Q.「ヒンドゥー教がグプタ朝時代に
成立した理由とは？」教科書P.38~

(3) **グプタ美術**...純インド的 ※3

ex. **アジャンターとエローラの石窟寺院** ※4

(4) **ヒンドゥー教**

...**バラモン教**+民間信仰の神々(ex. **シヴァ**) ※5

→**カースト制度**が定着

(5) **マヌ法典**の完成

(6) **ゼロの概念** ※6

(7) 6C、**イラン系のエフタル**により滅亡

1/2枚目のスライドはここまで!

(6) ゼロの概念

(7) 6C、イラン系のエフタルにより滅亡

——— ここから

⑥ ヴァルダナ朝(7C) 都_カナウジ

only ハルシャ王

T.Q.「ヒンドゥー教が

グプタ朝時代に成立した理由とは？」教科書P.38～

1 文芸保護

2 中国人僧の玄奘(げんじょう)(三蔵法師)が来印

→ナーランダー僧院で学び仏典漢訳 ※7①②

cf. 義浄の来印は、滅亡後の8C

⑦ チョーラ朝(B.C.3C~A.D.13C)

1 ドラヴィダ系タミル人による。中国との交易でさかえる

2 南インド~セイロン島北部

※T. A. まとめスライドへ

最後のスライドはここまで！

※1 サンスクリット文字 = 梵字 (ぼんじ)

梵字とはインドに発達したサンスクリット語を表記するために用いられた文字。

文字自体が不思議な力を持つだけでなく、それを発音する(「御真言」を唱える)ことによって、大きなパワーを発揮するとされる。



発音: アン

クリックで、梵字

意味: 普賢菩薩(ふげんぼさつ)

十二支: 辰(たつ)巳(へび)年生まれの「守護梵字」

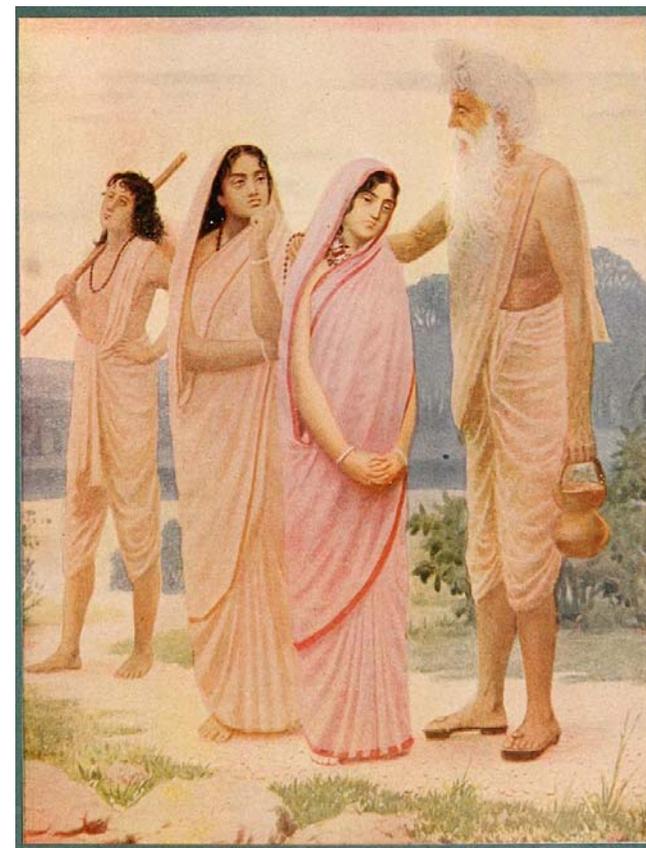
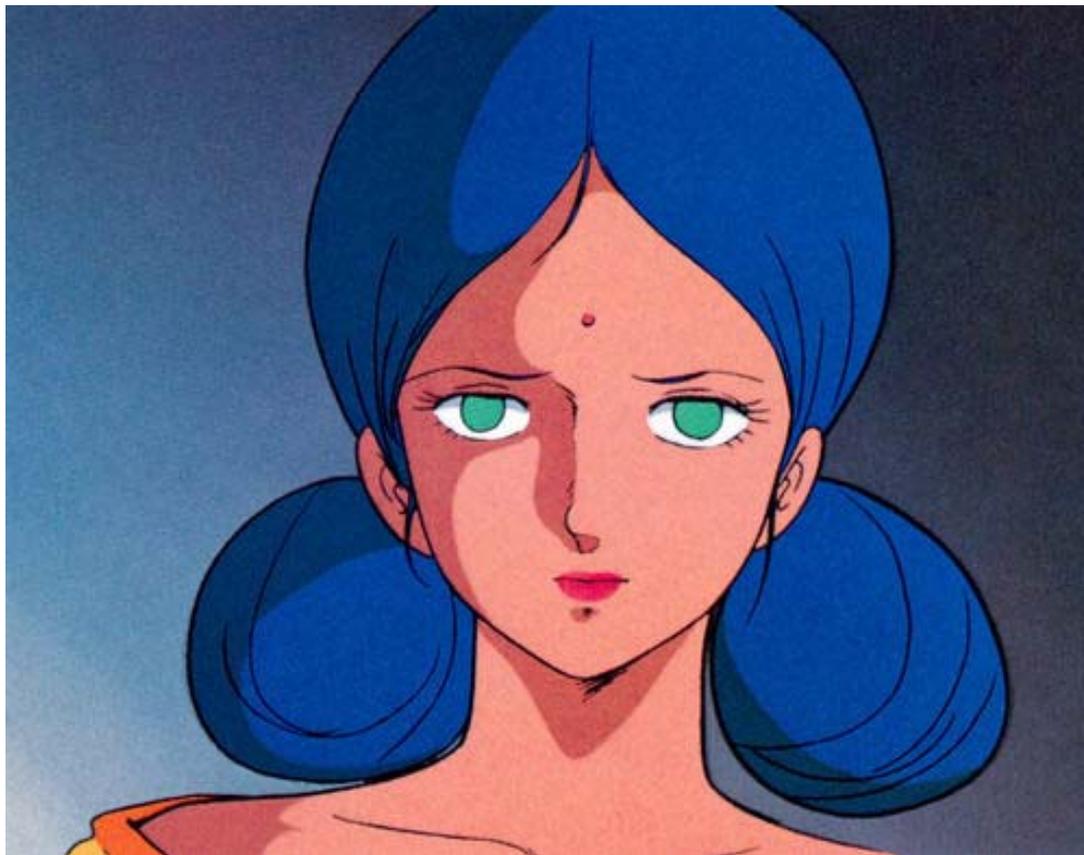
働き: 様々な菩薩(ぼさつ)の中で最も賢い。
利益増進・長寿を授けてくれる。

※2

『シャクンタラー』の世界

クリック①: 仙人とシャクンタラー

→②: アニメ「ガンダム」に登場する悲劇のヒロインで、シャアの恋人ララァ



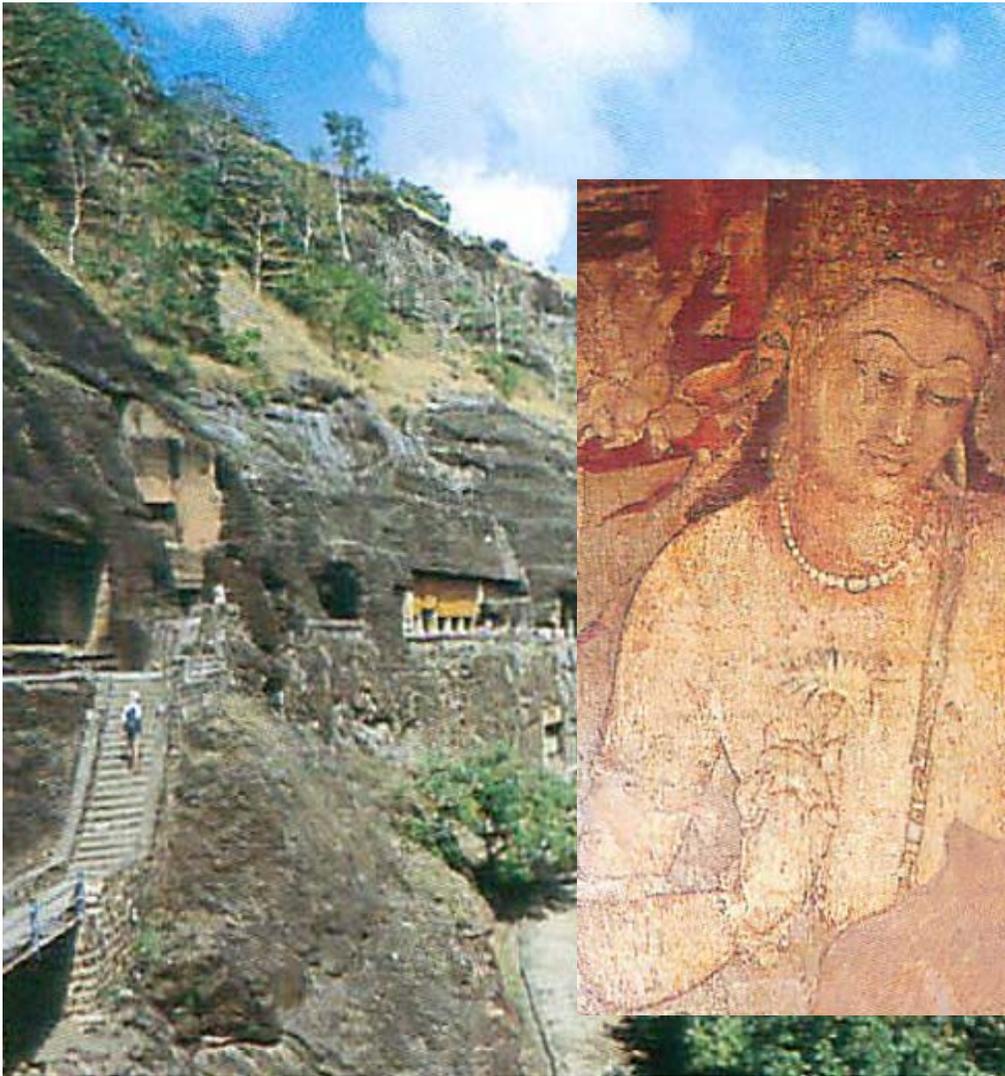


←純インド風のグプタ美術

クリックで比較:ヘレニズム＝ギリシア風の
ガンダーラ美術



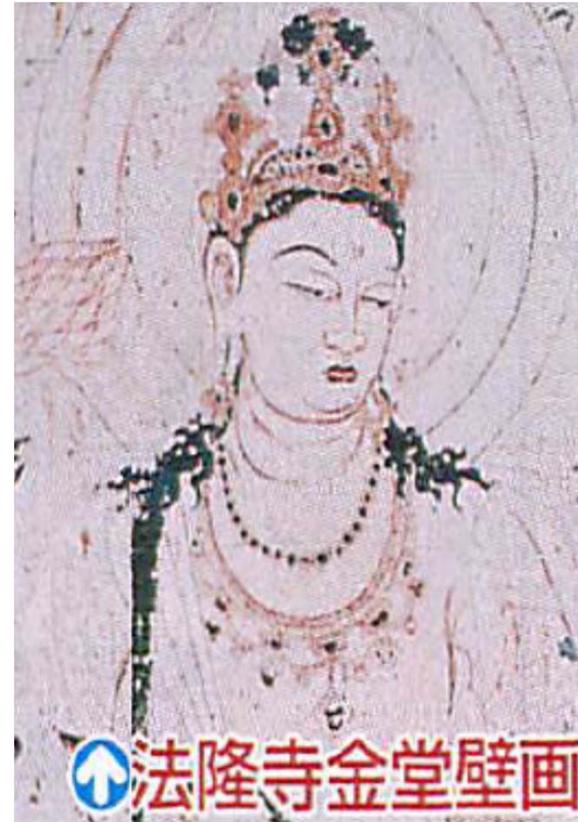
※3



①



②



↑ 法隆寺金堂壁画

↑ アジャンター石窟寺院(左)と菩薩像(右)

※ 4

クリック①: **アジャンターの菩薩像**
クリック②: **法隆寺の菩薩像**

5～6世紀に描かれた菩薩像は、シルク＝ロードを経て2世紀の後、法隆寺金堂の壁画へと姿を変えた。

※5 シヴァ神

クリックで写真



宇宙の**破壊神**。ダンスの神様でもある。インドでは古代から歌と踊りが神聖なものとされていた。四本の手とそれに巻きついた蛇、邪鬼を踏みつけ、高く上げた足、太陽と月を表す両目、そして**額には、この世の果てまでも見渡せる第三の目**をもっている。シヴァを囲む円輪は宇宙を表し、炎は苦しみや不安定な世界を象徴しています。卍(まんじ)を意味するポーズは、**太陽、誕生、再生の車輪と結び付けられ踊りの中で表現**。

※6

数字の変遷

1950をローマ数字で表すと...

ローマ	I V X L C D C D	C D D C C C C L
	1 5 10 50 100 500 1000	1000+500+4×100+50
中国	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十	一 千 九 百 五 十
インド	१ २ ३ ४ ५ ६ ७ ८ ९ ०	१ ९ ५ ०
アラビア	۱ ۲ ۳ ۴ ۵ ۶ ۷ ۸ ۹ ۰	۱ ۹ ۵ ۰
現代	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0	1 9 5 0

クリックで、ゼロをもたないローマ数字の不便さ

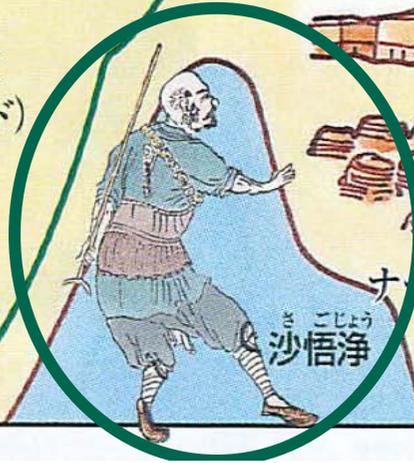
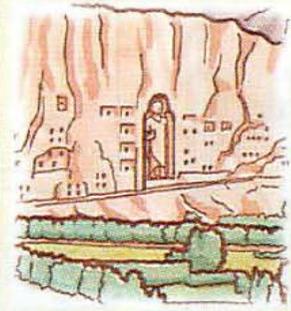
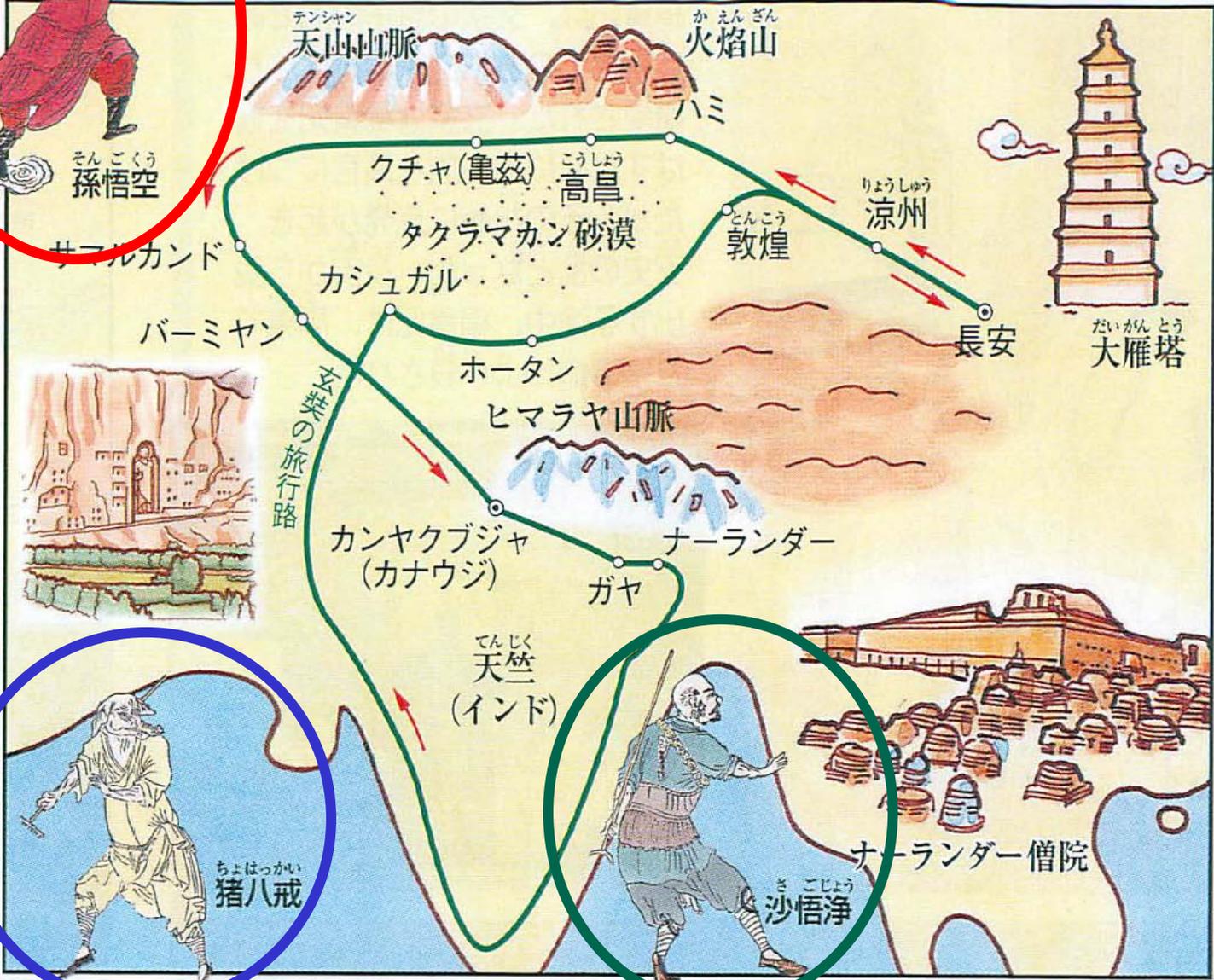


人物 玄奘 (602~664) の旅

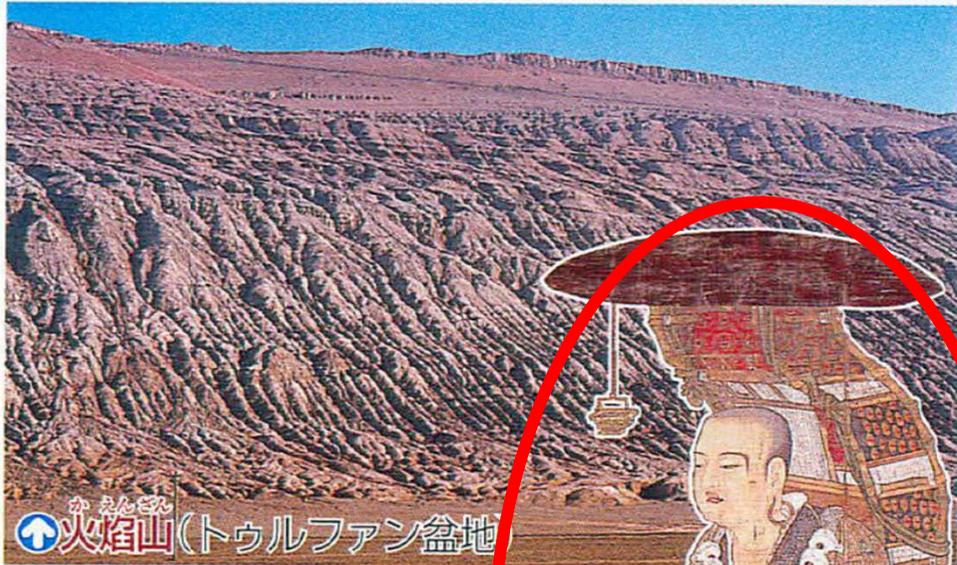
—『西遊記』の世界—

※7①

[next](#)



クリック①～③
孫悟空、
猪八戒、
沙悟浄



↑ 火焰山 (トウルファン盆地)

死人の骨を標識とした砂漠や氷河の立ちはだかる天山山脈など難所の連続であった。『西遊記』では、金角・銀角大王、鉄扇公主などの妖怪が一行の行く手を阻んだ。



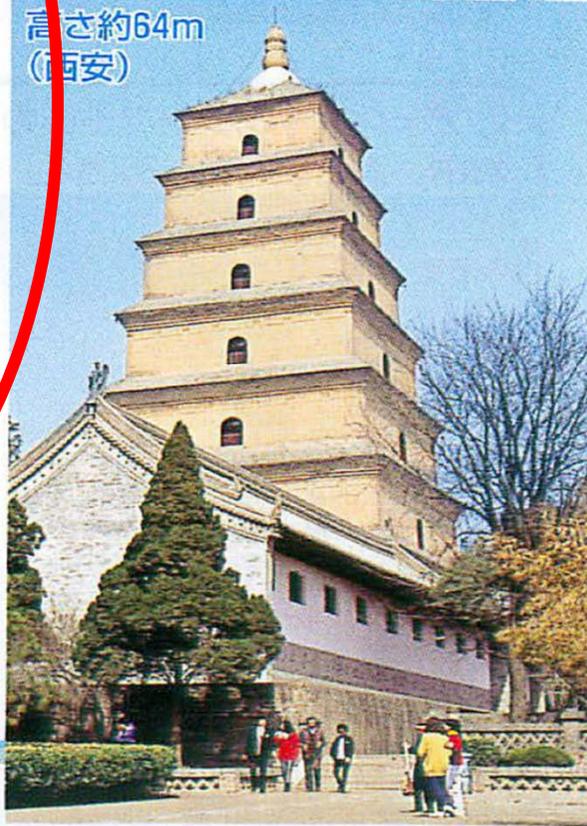
→ 玄奘 (三蔵法師)



↓ 天山山脈

孫悟空・猪八戒・沙悟浄を従えた三蔵法師が、お経を求めて天竺(インド)へ旅する物語『西遊記』は、玄奘の17年に及ぶ旅行が下敷きとなり、16世紀後半に小説として完成した。(P.72表)

大雁塔 大慈恩寺で仏典の漢訳に取り組んだ玄奘が経典を保管するために造った。



※7②
back

クリックで
玄奘
(三蔵法師)

Lecture 授業No.21

T.Q.「ヒन्दゥー教がグプタ朝時代に成立した理由とは？」

グプタ朝では前のクシャーナ朝とは違いインドの伝統に戻って再びバラモン教が重視された。そして民間で信仰されていたヴィシュヌ神やシヴァ神なども取り入れてヒन्दゥー教が成立した(3代目で全盛の国王チャンドラグプタ2世の時)。その際に定着したカースト制度が今もインドに残っている。